

事故に
学び
安全運転に
生かす

事例研究 84

交差点右折時に歩行者をひく

事故の概要

- 発生日時 1月18日(水) 午前6時30分頃 天候 雨
- 発生状況 運転者が積み込み先へ向かうため、県道交差点を右折しようとしたところ、横断中の歩行者を轢過して死亡させたもの。
- 事故当事者 男性50歳 相手側 男性23歳
- 事故原因 運転者は積み込みのため、物流センターに向かっていました。県道交差点を右折しようとする時、信号は青で対向車もいなかったことから、速度を維持したままハンドルを切って交差点へ進入しました。しかし、進行方向の横断歩道を歩いていた歩行者を見落とし、衝突するまで気がつきませんでした。衝突に驚き、ブレーキを掛けましたが、惰性により止まれず、衝突して倒れた歩行者を轢いて死亡させてしまいました。



提供：中部交通共済協同組合 事故防止部

被害／損害

23歳男子死亡

総損害額 1億1,300万円

■被害概要

- ・被害者の職業 大学生
- ・被害状況 頭部粉碎骨折により死亡。

■損害額内容

・治療費用	15万円
・逸失利益	8,400万円
・慰謝料	2,800万円
・葬儀費他	85万円
計	1億1,300万円

■運転者について

運転免許取り消しの行政処分を受けました。

被害者について

被害者は大学4年生で春から大学院に進むことを決めていました。工業大学の工学部で過ごした4年間はとても充実していて、更なる研究がしたいと思いを巡らせていました。進路も定まり、親孝行のつもりもあって大学卒業までの期間は親元に戻り、近所でアルバイトをしながら両親や姉と生活をしていました。

被害者はこの日、近所のバイト先まで小雨の降る中、傘を手に歩いていました。冬の朝は日の出が遅く、天気がよくなかったため、交差点の信号機が一層明るく感じる日でした。横断歩道を3分の2ほど進んだところで、車がぶつかってきてしまい、倒れたところを通り過ぎるように轢かれてしまいました。前輪で頭部を踏まれて即死の状態でした。事故の知らせに両親と姉が駆け付けましたが、呼びかけに応えるはずもなく、ただ静かに横たわる被害者を前に、それぞれがすがって涙せずにはいられなかったそうです。この事故により、将来を囑望された若者の人生が途絶えることになり、彼のまわりの多くの人が悲しみの淵へと突き落とされてしまったのです。

この事故から学ぶ事

運転者は、朝一番で物流センターの荷物を積んで、当日便で配達する予定でした。差し掛かった県道交差点は度々通ったことがあり、普段から交通量が少なく、この日も運転者以外の車両はいませんでした。交差点の形は変則で、ななめに交差していて、右折時にはやや鈍角に曲がるので見通しはよいように思っていました。しかし、事故の当日は雨が降っており、いつもとは違っていたのです。走行速度も速いし、よく見ていれば気がついたはずの歩行者をとらえることができなかったのです。

この事故の原因は、運転者が信号交差点の進入時に減速と進行方向の確認を怠り、不十分な確認のまま右折をしたことにあります。交差点というところは文字通り道路が交差するため沢山の危険が潜んでいます。確認にはまずしっかり見ることです。そして、そのためには十分な時間が必要なのですが、時に速度は確認に必要な時間を削り取ってってしまうのです。交差点および交差点付近は、交通事故が多発するためより注意を必要とする場所です。十分な確認ができるように減速し、危険を見つけた時には止まれるように運転しましょう。

提供：中部交通共済協同組合 事故防止部